

平成28年度 地域懇談会（西部支所管内） 記録	
日 時	平成29年1月29日（日） 午後3時から4時30分まで
場 所	中里交流センター 健康増進室
出席人数	(1) 市民 13人 (2) 事務局 教育長、教育部長、学務課職員、適正配置推進室職員 計19人
内 容	(1) 学校の適正配置について (2) 意見交換
事務局説明	(1) 資料1について (2) 小中学校適正規模に関する意識調査（途中集計）について [資料なし] (3) 日立市学校教育振興プランについて
意見交換	<p>( 意 見 )</p> <p>アンケートについて。小規模校の意見の吸い上げを丁寧にしてほしい。小規模校のサンプル数が少ないので、全体の割合からは小規模校側の要望や不安を汲み取れない。小規模校側の気持ちを汲み取れるデータの処理と公表をお願いしたい。</p> <p>( 事 務 局 )</p> <p>データ処理は、配慮しながら工夫していきたい。 アンケートだけではなく、懇談会などを今後も開催していく。生の声として、聞かせてほしい。</p> <p>( 質 問 )</p> <p>小規模特認校を始めるにあたっては、保護者に対し計画の段階からの説明がなかった。「中里から市街の学校へ行くという選択肢はないのか」と問うたところ「ありません」と即答され、ショックだった。行政の進め方に不信感が強かった。今回は、初めから説明が聞けて良かった。</p> <p>小規模特認校について教育委員会としては、どのように考えているのか。周囲の子育て中の保護者からは、卒業まで学校があるのか不安が強い。子どもが少ない中で、不安を持って子育てをしている。見通しをはっきりしてほしい。</p> <p>( 意 見 )</p> <p>「子どもの人数が減ってきたから学校を減らす」と聞こえる。おそらく、今後、子どもが増えることはない。学校を減らす前に、中里をモデルケースとして（少ないなりの教育の試みを）提案して行ってほしい。旧里美、旧金砂郷は1校ずつになってしまったが、“日立は違う。子どもの数は減っていても学習環境はいい”とPRしてほしい。学校のないところに引っ越しては来ない。なるべく学校を減らさないで頑張してほしい。</p>

( 教育部長 )

以前の対応については、お詫び申し上げます。

近隣市の統廃合も、やむを得ずという状況である。

日立市としてどのような形がいいのか、地域の実情によって考えていきたい。必ずしも統廃合ということではない。中里地区は物理的に市街地から離れているという事情もある。

人口の増加には30年程度かかる。減り始めるとなかなか増えない。子どもが減るという前提で、地域の実情に合わせて学校の維持の方法(小学校同士、中学校同士、小学校と中学校など様々な形)を考えていかなければならない。日立市には、南北に長いという地形上の課題もある。

検討委員会で作る素案を地域の方々にも見ていただいて、ご意見を伺っていきたい。

学齢期は人間関係を学ぶ時期でもある。子ども同士の付き合いも必要である。いろいろな要素を踏まえて考えていきたい。

( 意見 )

数の問題ではないと思う。中里地区では、地域の人たちとの交流の中で人間性は育つ。アンケートは大人の意見。統合により、急に大きいところに放たれて不安に思う子どももいると思う。子どもたちの声も反映してほしい。

( 教育部長 )

「数で考える」と申し上げた訳ではない。誤解を招いたならお詫びする。

( 事務局 )

見通しをということであるが、平成30年度末(平成31年3月)を目途に計画を作るが、その中でタイムスケジュールを作る。計画ができたから、いきなり統合するというようなことはない。

( 意見 )

中里の特殊性、地域性、小中PTAの一本化、教職員の取り組みなどを通して子どもたちが伸びている。計画の中には、基準と評価を位置づけて、判断材料にしてほしい。中里小中学校の取り組みが(小規模校教育の)発信地として役立てるのではないか。

( 質問 )

小規模特認校制度についても、白紙として統廃合を考慮するのか。

( 教育部長 )

中里の取り組みが他の地域にも参考になる。地域の事情があるので、できるところ、できないところはある。「ゼロの状態」というのは、市としての適正配置の腹案はないということで、小規模特認校制度を白紙にするという意味ではない。いろいろとご意見いただいていることを検討しながら決めていく。

( 意見 )

難しい問題だというのが率直な感想。数で現れる部分とそうでない部分を共に考えなければならないのは大変だ。財政的な課題もあるのだろ

うが、教育のソフトの部分に目を向けてほしいと思う。

(アンケートの質問の中で) 小1と小6の29人(日立市立小学校の平均)では全く違う。現場を見ている保護者や先生方にとっては不思議な質問だと思う。

保護者の立場からは、日立市の財政よりも、子どもも先生も、楽しく、通いやすい、働きやすい場所にしてほしい。その方が結果的には子どもたちの将来につながっていくと思う。

#### (意見)

中里小を見学に来たとき、子どもたちが生き生きとしていた。(居住地の)学区の学校の説明会では学校の魅力が伝わらなかった。中里小の説明会は学校の魅力が満載で「行きたい(通わせたい)」と思った。

少子化だからこそ統廃合しても、魅力のある学校にしてほしい。教育の質を上げてほしい。住んでいる地域では、中学校が荒れているという噂が出ると、こぞって私立を受ける。それは悲しい。行きたいと思える魅力ある学校にしてほしい。

学区外の学校に通わせることに躊躇する保護者は多い。自分も覚悟して通わせている。強い思いを持って(子どもを通わせて)いる保護者もいるので、気持ちを汲んでほしい。

住んでいる学区と通っている学校が違うので、アンケートに答えにくかった。

教職員のアンケート回答率が低いのがショックだった。

#### (事務局)

教職員の回答率の低さは、学期末の忙しい時期に設定してしまった事務局の不手際もある。休職や長期研修などで回答できない場合もあり、その中で教員の回答率は84%程度ある。事務職員の回答率が低かった。忙しい中でも協力していただいた。

#### (質問)

(元教員の経験から)複式学級の指導は難しく戸惑いが多い。教育委員会では、複式学級の先生方の指導をどのようにしているのか。

中里の地域で見れば、(子どもたちがいなくなり)廃校になってしまうのではないかと。学校は地域の中心なので、それまでの間にも教員の不安は取り除く指導をしてほしい。

#### (事務局)

複式学級は、複数学年を同時に授業するので、教材研究も同時に進める場面も多い。

中里小中学校は、9年間のカリキュラムで小中学校の先生方が連携して(中学校の先生が小学校で、小学校の先生が中学校で)子どもたちを見ていくことが他の学校と違った良さである。一人一人に応じた指導ができるのも小規模校ならではのであろう。専門性のある(中学校の)先生が小学生を指導していることも、子どもたちにとって良いカリキュラムになっていると思っている。先生方もはじめは戸惑うが、校内研修や小中学校の連携などで早期に不安を解消していると聞いている。複式ならではの難しさもあるが、地域、保護者の支援も多く、子どもたちの成長が目に見える。指導者側にとってもやりがいのある学校だと思う。

( 事務局 )

アンケートでは、クラスの人数などの情報を持っていない方のために平均を示したので、分かりにくい面もあったかと思う。

学級編成のルールを紹介する。茨城県では、小学1，2年生は35人で編成する。小学3年生～中学1年までは、35人を超えると非常勤を配置、35人を超える学級が3学級以上で1学級増設など、少人数で行えるようにルール化されている。

( 意見 )

小中一貫、中高一貫など、学校間のうまくつなげないところ(中1ギャップなど)を学校制度の中で解消しようとする試みがなされ、教育的効果が出ている。小中一貫という取り組みの中で中里小中のよさを評価してほしい。

市内の学校での一貫教育などの方向性を教えてほしい。

( 事務局 )

市内の中学校では小中連携教育の研究を進めている。小中学校の教員がそれぞれを授業参観し、情報交換を行ったりしながら、9年間の教育を見通した研究をしている。中里小中の成果や課題を他校にも広げている。小中一貫の良さをPRしている。

( 意見 )

自分は検討委員会の委員あるが、(検討委員会の委員が)もっと懇談会に参加して、地域の人の意見を聴くべきだと思った。(委員である)我々は、勉強しなくてはいけないと思った。

( 意見 )

自分も委員である。中里小中学校の行事に参加してみると、子どもたちが生き生きしていて素晴らしい。人数では割り切れないと思った。

( 教育長 )

各会場に検討委員の皆さんに足を運んでいただいている。

( 意見 )

市内の保護者に中里小のことを知ってほしい。知らない保護者がとても多い。知っていたら入学したかもしれないと思うと残念でならない。

教育は多様性があるべきだ。中里のシステムを多様性の一つ、可能性の一つとして(中里小中を)存続させてしてほしい。

( 教育長 )

これから考えていかなければならないし、皆様に広げていきたい。

制度や仕組み、税金の使い方など、いろいろ考えていかなければならない。